

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
蒲郡市児童発達支援センター		R8年 3月 5日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	その日の利用人数、子どもの状況や発達に応じ廊下や机の配置等を変え、わかりやすく安全に過ごせる工夫をしている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	適切に配置されているだけでなく子どもの状態に応じ対応できる職員体制で行っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	パーテーションで区切って刺激の統制をする、印やマークを利用する等構造化して分かりやすい環境を整えている。	戸外遊具が固定化されているので子どもの興味に合わせて遊具を増やす調整する等していく。 周囲柵にパーテーションを設け、着替え、シャワー時のプライバシーを守るよう改善する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	清掃や整頓を心掛け、清潔に保たれている。廊下等も使いながらいろいろな場で活動できるようにしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	パーテーション等で区切って個別スペースを作る工夫をしている。	今ある空間をパーテーションの活用で仕切ったり机等の配置の工夫をして、個別を大切にす環境を検討していく。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員間で活動の計画、反省をし、次の活動に生かしている。打ち合わせ等に参加できない職員は紙面で共有している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	評価をもとに改善できるところはしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	打ち合わせや、カンファレンスで意見を聞けるようにし、改善できるところはしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		今年度は第三者評価予定されていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	職員の経験など、必要に応じて研修を受けられるようにしている。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	H P で公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	支援後の各クラスのカンファレンスに職員が参加して子どもの姿、発達について共有、検討している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	カンファレンスで共有したり、記録を共有したりして支援している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		標準化されたツールについては全職員で理解、共有していくよう再確認していく。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	職員がそれぞれの立場で関わってカンファレンスする中で、子どもの姿に合わせて活動の内容を検討し、立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	子どもの姿、発達に合わせて段階的に成長していけるよう考えて活動の内容を変化させ、固定化せず経験を積めるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	日々の姿を十分観察したうえで個別や集団の活動を組み支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	各クラスのカンファレンスや朝の時間で確認、共有している。 朝の時差出勤で支援前の打ち合わせが難しい職員は日案で役割分担を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	各クラスで振り返りのカンファレンスを行い、職員の声を聞き、次の療育に活かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	個別記録を書き、日々の子どもの様子を個別の記録から把握したり共有したりしている。	より良い記録となるよう、個別の記録の書き方、目標に視点を置いて反省されているか等、話し合いや確認をしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	移行や併用の案が出た際は、職員が園に見学に行き、情報共有している。	普段から保育園、幼稚園等に子どもの様子の見学に行ったり、電話で情報交換したりする機会を増やし、相互理解を図る。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	引き継ぎ書を作成して情報共有している。 学校教育課を介して行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6	0	研修会を年1回開催し、参加を求め、質の向上となるよう努めている。	今後も継続して研修会を計画、実施する。 市内だけでなく、市外の事業所にも研修の依頼をして、資質向上に取り組んでいく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	0	必要に応じて研修会に参加させている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	0	こども部会、子育て会議に参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	近隣に保育所、子ども園はなく、事業所としてはできていないが、交流保育を希望する子には交流の場がある。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時に様子を伝え合ったり、かかわり方等の情報共有したりしている。親子クラスでは必要に応じその都度話をする。また、定期的にモニタリングで発達、課題について話をして共通理解している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	ペアトレや、心理士、栄養士等の専門の話を聞く勉強会を実施し情報を提供している。	年度途中利用の保護者等、より多くの保護者がペアトレ等のプログラムに参加できるよう、日程を後半に調整していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	利用契約時や、見学時に説明を丁寧に行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	外国籍の方には通訳を介して意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	外国籍の方には、英語、スペイン語に翻訳したものを使い、説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	定期的に加え、その都度必要に応じ行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	保護者交流会を月1回行っている。	就労している保護者、外国籍の方も多く交流が難しいが、開催の方法や回数を見直し検討する。 きょうだい同士はできていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	迅速に対応している。苦情解決窓口を開設し周知もしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HPよりも手軽にみられるコドモン(アプリ)で配信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報に関わるものは鍵付きの棚、パスワード付きPCで管理できている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	視覚的にわかりやすく伝えたり個別で対応したりしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		マニュアルの見直し、マニュアルに沿ったシミュレーションを行う。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	毎月訓練を行い、反省をしている。	反省を活かし、親子クラスの靴箱の配置を改善する。また、二次避難先が遠く、立地的に危険が伴うので避難先の再検討をしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	アセスメントで確認している。保護者の聞き取りをしマニュアル作りをしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	子育て支援課と連携しながら指示書を利用し対応する仕組みがある。(現在は対象児なし)	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		計画はあるが、保護者への周知はできていないので、掲示、コドモン(アプリ)で配信等、周知の方法を検討する。

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	定期的に職員会議で共有している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	その都度保護者に必要性を伝え、保護者の了解を得て計画に記載している。	